

去月二十三日の噴火記事の補遺として淺間越踏査による分去茶屋附近の狀況を添記す。

三月十三日拂曉の降灰

噴火時刻は起時が夜中なると音響又は地震等伴はざりたため明かならず、噴煙は火口より南東に流れ小淺間の南方より星野礦泉地附近の上空を通過し徑路に多少の灰砂を降らし輕井澤方面に向ひたる如し、而して降灰區域は淺間山より南東十軒餘の輕井澤町附近を中心とし幅八軒内外の小區域にて南西方は沓掛鹽澤を界とし北方は小瀬附近を出づれば殆ど認められずして新舊輕井澤、離山、鶴溜、峠町、矢ヶ崎附近一圓に可成の降灰あり、輕井澤驛員の談によると十三日午前一時頃より降り始め同四時頃最も強かりしが五時頃に至り歇みたるも通行に一時は傘を使用せし程にて尺餘の積雪面上は一面灰を以て覆はれ眞黒くなりたれども積る程には至らざりきと、此度の降灰は追分支所に於ける當時の風速が二米内外なれば國境を越えて餘り遠く迄飛散せるものとは想はれ難く又地震計や自記晴雨計の記象紙にも異常なき所より見れば爆發的噴火ならずして大噴煙とも稱し得べきものなり。小噴火の際には著しく認められざるも當時の氣壓配置は明かならざるも去十一日朝北佐久郡一圓の春雪は多少誘發の副因なるべし。

最近の噴火降灰記事

三月九日

淺間山より東方九軒距たる長日向の草津電鐵驛員の談によると此日噴煙多量にて少量の降灰あり。

三月十三日夜乃至十四日午前

浅間の北東六軒鎌原分去茶屋にてゴウ、ウ、ウと鳴動を聞き降灰あり。

三月十五日

長日向にて午前六時頃よりドン、ウ、ウと音響を聞く、輕井澤、鶴溜に降灰あり。

三月十六日

國境平（浅間山より東北東八軒距る）と二度上（浅間山より北東十軒離る）に降灰あり。

三月十六日夜乃至十七日

鎌原分去茶屋附近にて時々鳴動聞ゆ、噴煙は小浅間を中心として輕井澤方面に流る。

三月二十三日

午前九時二十六分頃より暫くの間輕井澤地方に降灰ありて午後も可成噴煙多量。

二月二十三日の噴火記事補遺

鎌原分去茶屋にてドンと強き音響を聞き四、五分も経たずして噴石の落つる音を聞く、強き音響波は戸障子にピリ、ウと激振を與へたるが破損せしものなしと、抛出せし熔岩片は此茶屋より南一軒距たる分去茶屋より、南方四十間程離れたる地點より約一丁位の間に最大徑五、六寸より一、二寸位の質堅緻なる黒色玻璃質のものを降らせ間々氣泡に富む鑛滓狀の輕鬆な灰褐色のも交へて一寸餘積りた

るもバラス様の小岩片は鎌原分去茶屋より三丁程南より約十四、五丁の間三分位積りて此茶屋附近は灰砂を降らせしが積る程には至らざりき。

而して前記降石の中心地域は既報の二度上附近の被害地と川浦小學兒童の負傷地點と噴火口より約東二〇度北の一直線上に存在す。

今回の噴火にて焼失せる分去茶屋は中心地域より僅に外れたるも不幸にして全焼し残るは唯厩舎の一部と道路の東側にある便所位のものなり、同家の者は不在にて當時の様様不明なるも鎌原分去茶屋の主人内掘近太郎氏の談によれば當時九十歳の婆さんと五十六歳の男二人切りにて赤熱熔岩片の落下は十五分間位にて歇みたれば屋上に登り雪を以て熔岩の落下箇所相當てがひ消防に努めしが六、七寸積りし厩舎の茅葺屋根を貫ける熔岩片が天井近くに止まつた爲め、延焼して隣家茶屋焼せりと、尙婆さんは庭に落ちし熔岩片が屋内に跳ね返せしものにあたり着物を焼さしが僅かの負傷にて濟み、又飼育せる馬牛には被害なかりしと聞く。